

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小牧長治物流センターⅡ 新	階数	4F
建設地	愛知県小牧市長治町22番 他	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	317 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年8月16日
敷地面積	8,972 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社愛知支社
建築面積	5,387 m <sup>2</sup>	確認日	2018年8月16日
延床面積	14,417 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社愛知北支社 山本透



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	79%
④上記+	79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

音環境	2.7
温熱環境	2.3
光・視環境	2.5
空気質環境	3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.0
耐用性	3.1
対応性	3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.0

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.4
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.8
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>9.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	9.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	9.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>														2.4
<b>Q1 室内環境</b>														2.6
<b>1 音環境</b>														2.7
1.1 室内騒音レベル														2.7
1.2 遮音														2.7
1 開口部遮音性能														2.7
2 外壁遮音性能														2.7
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														2.7
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														2.7
1.3 吸音														2.7
壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。														2.7
<b>2 温熱環境</b>														2.3
2.1 室温制御														2.3
1 室温														2.3
2 外皮性能														2.3
3 ゾーン別制御性														2.3
2.2 湿度制御														2.3
2.3 空調方式														2.3
<b>3 光・視環境</b>														2.5
3.1 昼光利用														2.5
1 昼光率														2.5
2 方位別開口														2.5
3 昼光利用設備														2.5
事務室③: 昼光率2.34%														2.5
3.2 グレア対策														2.5
1 昼光制御														2.5
3.3 照度														2.5
3.4 照明制御														2.5
<b>4 空気質環境</b>														3.0
4.1 発生源対策														3.0
1 化学汚染物質														3.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
事務室④: 自然換気性能0.078 ≥ 0.066														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0
2 喫煙の制御														3.0
<b>Q2 サービス性能</b>														3.2
<b>1 機能性</b>														3.0
1.1 機能性・使いやすさ														3.0
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														3.0
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														3.0
1 維持管理に配慮した設計														3.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
<b>2 耐用性・信頼性</b>														3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.1
2 免震・制震・制振性能														3.1
2.2 部品・部材の耐用年数														3.1
1 躯体材料の耐用年数														3.1
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.1
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.1
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.1
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.1
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.1
30年以上														3.1
主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。														3.1
2.4 信頼性														3.1
1 空調・換気設備														3.1
2 給排水・衛生設備														3.1
3 電気設備														3.1
4 機械・配管支持方法														3.1
5 通信・情報設備														3.1



# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)小牧長治物流センターⅡ 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:9.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$  の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)小牧長治物流センター

計画上の配慮事項	
総合	事務室の開口部が広くとられている為、十分な自然換気性能を有している。さらに、執務スペースに対してリフレッシュスペースが広く確保されており、執務所の作業環境に配慮した設計となっている。
Q1 室内環境	事務室の自然換気有効開口面積が居住床面積の1/15以上を確保している
Q2 サービス性能	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用 外壁仕上げ材の補修必要間隔が30年以上の建材を採用
Q3 室外環境(敷地内)	空地面積に配慮した
LR1 エネルギー	$[BPI][BPI_m]=0.61$
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率=79%
その他	特に無し